

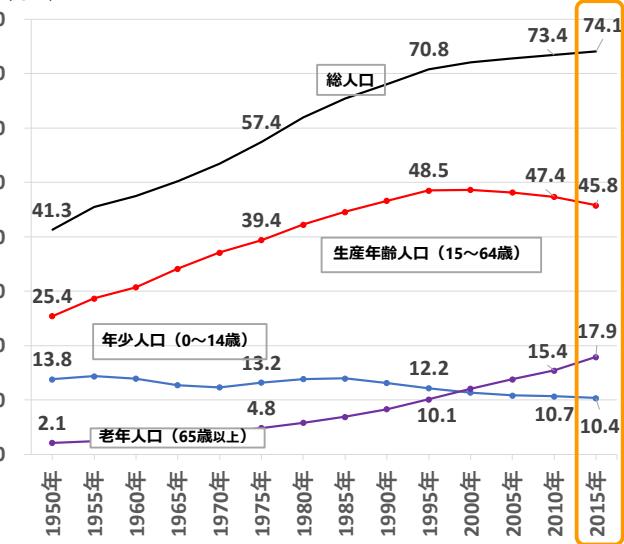
【総人口等】 (出典)：総務省統計局「国勢調査結果」、「熊本県推計人口調査結果報告(年報)」、「熊本市の保健福祉」より作成

<b>総人口</b>	2010年：734,477人 → 2015年：740,822人	
<b>人口割合</b>	年少人口 2010年：14.5% → 2015年：14.0% ⇒ 0.5pt減少	} 少子高齢化の継続
	生産年齢人口 2010年：64.5% → 2015年：61.8% ⇒ 2.7pt減少	
	老年人口 2010年：21.0% → 2015年：24.2% ⇒ 3.2pt増加	
<b>自然増減</b>	1975年～2015年：自然増 → 2016年以降：自然減	自然増から自然減への転換
<b>社会増減</b>	2011年～2013年：社会増 → 2014年以降(2017年を除く)：社会減	2017年を除き、社会減の傾向

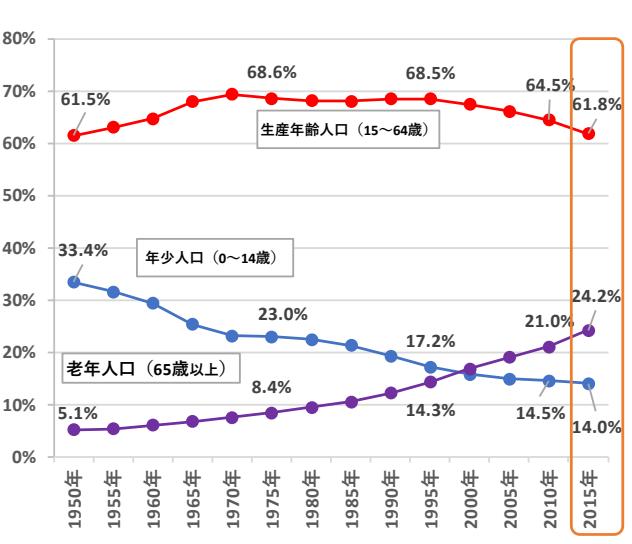
【出生・婚姻の状況】 (出典)：総務省統計局「国勢調査結果」、「熊本市の保健福祉」等より作成

<b>合計特殊出生率</b>	2010年：1.48 → 2015年：1.56 ⇒ 0.08増加	合計特殊出生率の向上
<b>平均初婚年齢</b>	男性 2010年：30.19歳 → 2015年：29.77歳 ⇒ 0.42歳減少	} 晩婚化の改善
	女性 2010年：29.45歳 → 2015年：28.98歳 ⇒ 0.47歳減少	
<b>生涯未婚率</b>	男性 2010年：16.04% → 2015年：19.49% ⇒ 3.45pt増加	} 未婚化の継続
	女性 2010年：12.24% → 2015年：15.90% ⇒ 3.66pt増加	
<b>出生平均年齢</b>	第1子 2010年：28.9歳 → 2015年：30.2歳 ⇒ 1.3歳増加	} 晩産化の継続
	第2子 2010年：31.0歳 → 2015年：32.1歳 ⇒ 1.1歳増加	

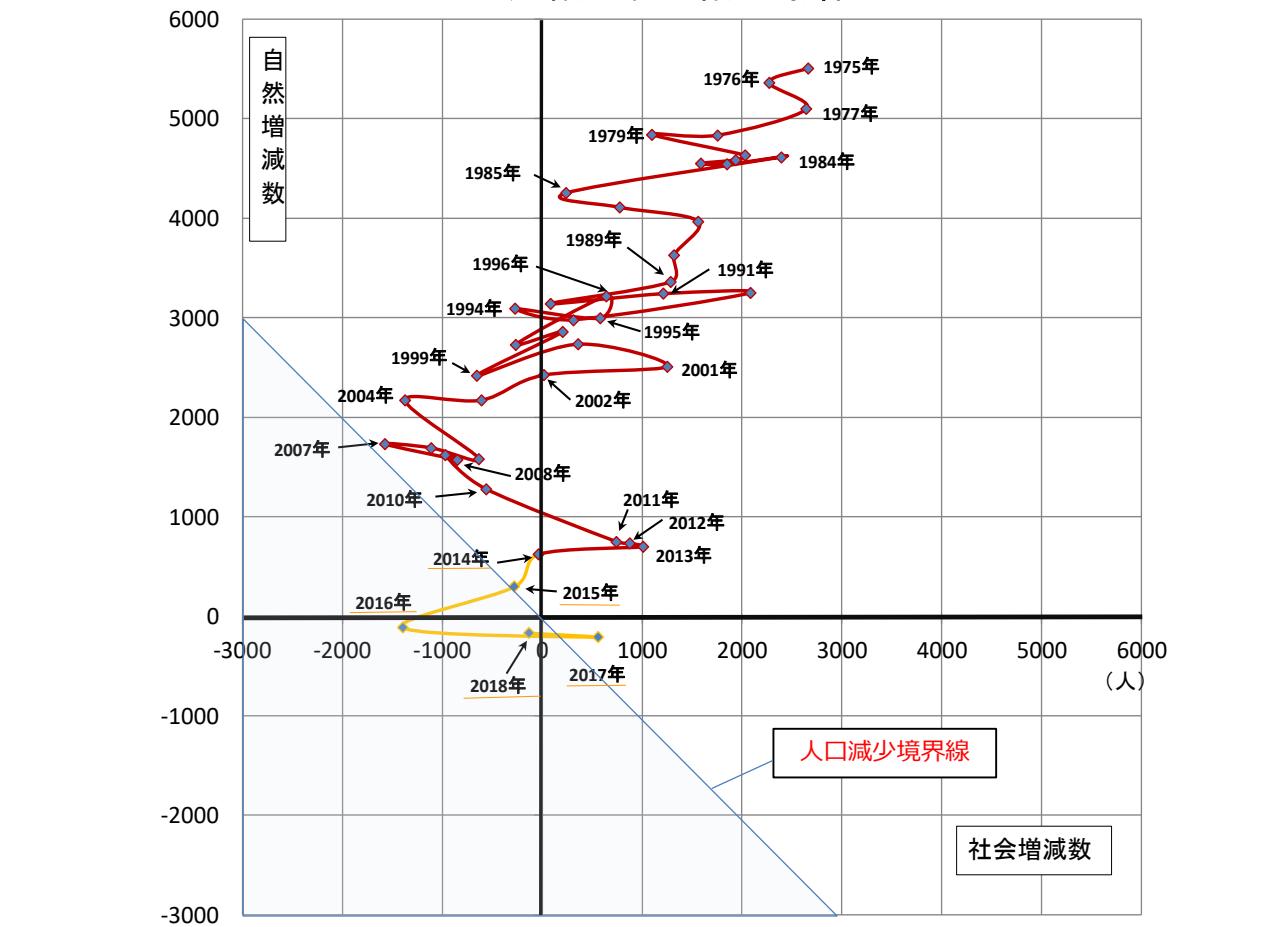
総人口及び年齢3区分人口の推移



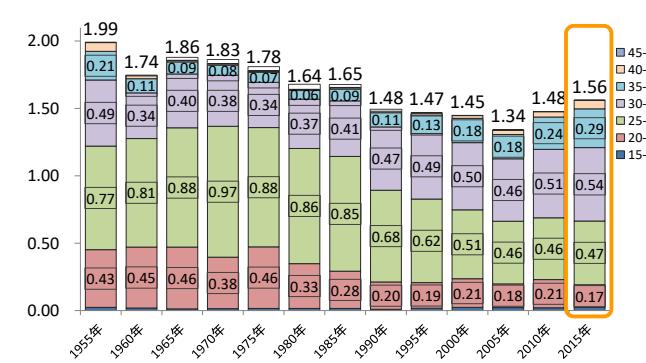
年齢3区分人口割合の推移



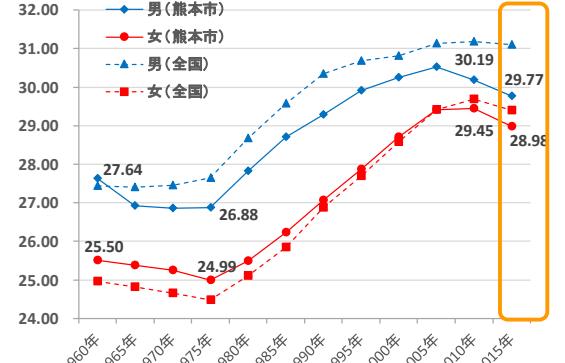
自然増減と社会増減の影響



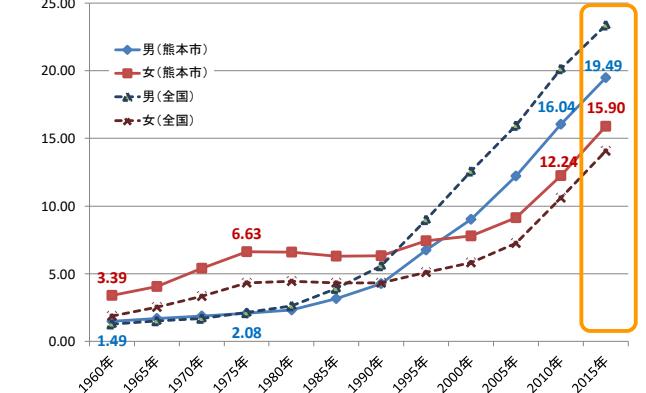
熊本市の合計特殊出生率・母親の年齢別出生率の推移



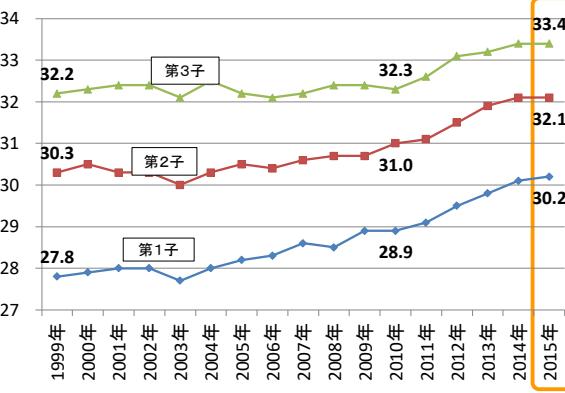
熊本市と全国の平均初婚年齢の推移



熊本市と全国の生涯未婚率の推移



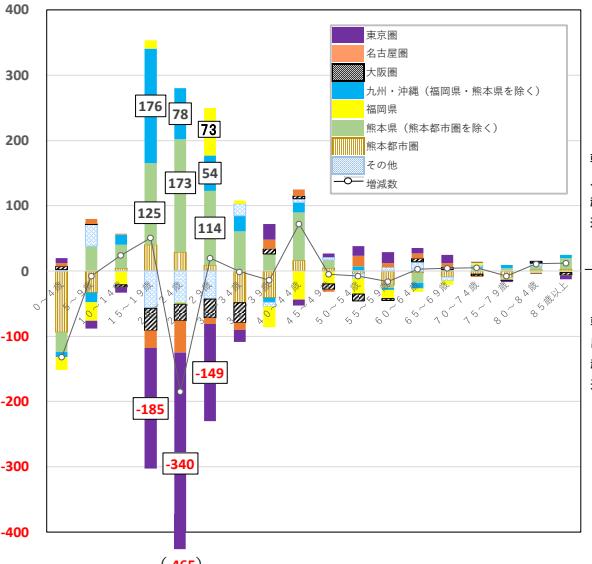
出生順位別にみた母の平均年齢の推移



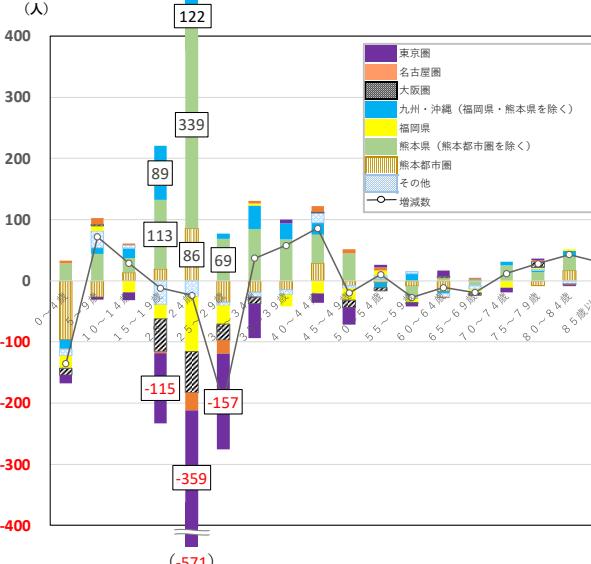
【転入・転出の状況】 (出典)：熊本市住民基本台帳移動データによる独自集計

「15～29歳」男女の東京圏・名古屋圏・大阪圏への転出超過数 2014年：1450人 → 2018年：1678人 228人増加  
 「0～9歳」及び「30～39歳」男女の熊本都市圏への転出超過数 2014年：319人 → 2018年：374人 55人増加

2018年(男性)



2018年(女性)

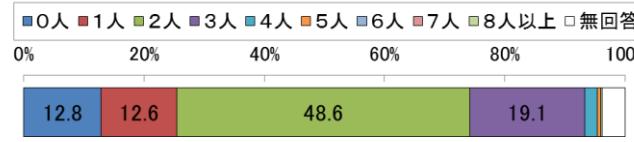


1 将来展望に向けた市民意識とニーズ

(出典)：「熊本市アンケート調査結果報告書」2015年8月実施

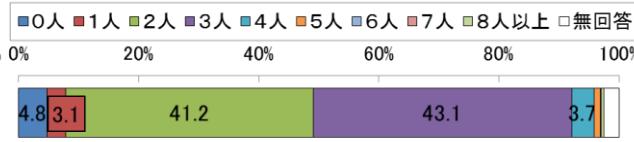
○結婚・出産・子育てに関する意識調査

【最終的に持つつもりの子どもの数】 平均1.88人



理想と現実のギャップ

【理想的な子どもの数】 平均2.46人



【最終的に持つつもりの子どもの数が理想より少ない理由】 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」 (55.4%)

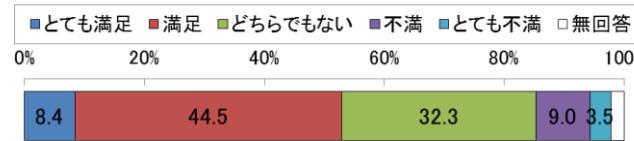
【今後どのようなことがあれば出産が増えてくると思うか】 「出産や子育てにかかる経済的負担の軽減」 (58.5%)

子育てや教育等の経済的負担、家庭と仕事の両立、結婚後生活に対する不安など ⇒ 課題への的確な対応

○移住に関する意識調査

安定した生活の確保

【現在のライフスタイルの満足度】



【金銭面の満足度】



ライフスタイルでは満足の割合が高いが、金銭面での不満の割合が高い ⇒ 雇用や就労の支援

○大学生等の進路希望調査

地元(出身地)志向・チャレンジ志向の傾向大

【卒業後の生活(大学生)】



【卒業後、熊本市で生活したい理由】 「地元で仕事をしたいと考えているから」 (60.4%)

【卒業後、熊本市を離れる理由】 「出身地での就職を希望しているから」 (37.4%) 「他の場所で何かにチャレンジしたいから」 (22.5%)

【高校卒業後どこで生活したいか】



【卒業後、熊本市で生活したい理由】 「親など家族が近くにいるから」 (43.8%)

【卒業後、熊本市を離れる理由】 「高校卒業後の進学先が熊本市外だから」 (55.7%) 「新しい場所で何かチャレンジしたいから」 (32.0%)

学生の地元志向が強い一方で、選択できる仕事や職種が限られ市外に転出  
⇒ 学生の希望に応じた雇用の確保や就業環境の整備  
進学、チャレンジのため市外に転出 ⇒ 将来的なUターンにつながる就職や起業化の環境整備

2 目指すべき将来の方向

自然増減 ⇒ 結婚・出産・子育てに対する不安など ⇒ 結婚・出産・子育ての切れ目ない支援、雇用や就労の環境整備など、総合的な少子化対策

社会増減 ⇒ 希望する仕事の不足など ⇒ 雇用機会の確保、起業化できる環境整備など

⇒ 地域経済の縮小など ⇒ 交流人口の増加による地域活力の維持・再生

安心して子どもを産み育てられるまちを実現する。

～少子化の克服と次世代育成～

国内外から人々を引き付けるまちを創り、安心して働くことができる雇用を生み出す。

～移住・定住の促進と交流の活発化～

一体的取組み

多様な地域が形成され、安心して暮らせる地域社会を実現する。

～地域の特性に応じた社会環境の創出～

3 人口の将来展望

<対象期間> 2050年まで

※2050年以降の数値は参考記載

<推計条件>

○合計特殊出生率  
2030年 2.0 (県民希望出生率)  
2040年 2.1 (市民希望出生率)

○移動数  
年間平均400人程度の転入超過

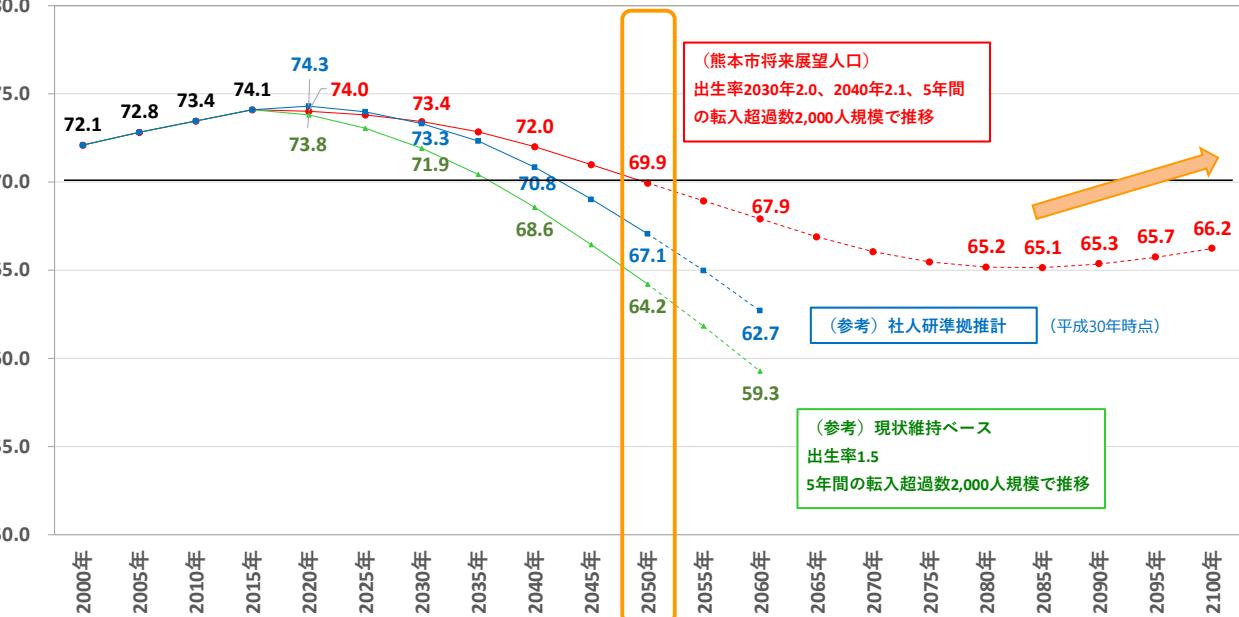
実現

<総人口と高齢化率の将来展望>

○総人口  
1985年 654,348人  
2050年 70万人程度  
2080年頃 65万人程度  
2090年以降 年間数百人程度増加

○高齢化率(老年人口割合)  
2050年 33.4% (ピーク)  
2090年頃 26%程度

熊本市の総人口の長期的推計と将来展望



年齢3区分人口割合の将来展望

